



【お庭づくりの極意】

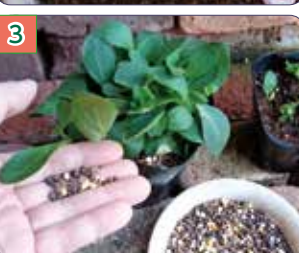
人目を惹くアイキャッチャープラントを決定するところから始まります。大きなシンボルツリー、壁一面に開花するつる性のバラ、目線の高さに飾られたハンギングバスケット、前景プランターの花苗が豪華に咲き乱れていたりするなど、これらがうまく配置されていれば、美しいガーデンといえます。

準備物



(左から)底を切り取ったペットボトル、花苗、緩効性化成肥料、3.5号ポット、クラフトばさみ、移植ゴテ、園芸培養土

手順



1 根鉢の底を十字にカットしてやや広げ、3.5号ポットに園芸培養土を少量入れ、その上に根鉢を置きポットとの隙間に園芸培養土を詰め込む。2 株元から伸長している茎を半分までカットする。3 花苗に直接触れないように、ポットの周辺に肥料を施す。4 鉢穴から流れ出る水が透明になるまで水やりをたっぷりする。鉢穴から根が1mmでも飛び出してきたら、順次5号、7号、10号鉢へと鉢増しする。

今回は7月号予定 ニチニチソウ(ピンカ)の栽培方法

あなたの自慢のお庭・植物など、園芸写真を募集します！優秀作品にはトミー先生からのプレゼントが！

詳しくはこちら▶



園芸はじめての1歩！

3年かけて理想の庭づくりへ

写真・文：富山 昌克

今年度はお庭の前景部分を彩る花を季節ごとに紹介します。手軽に入手できて、誰でも簡単に咲かせられる超スタンダードな園芸植物の栽培法をマスターしましょう。



No.1 ペチュニア



※秋までにもっと大きく育つこともあります

昭和64年頃から流通しはじめた^{ほふく}匍匐性(茎が横に這うように伸びる)ペチュニアは、それまでタネから育てる^{みしよう}実生系品種のみだったペチュニアの世界を一変させた。従来とは異なり、雨に強く、すぐに大株に育つため世界中で大人気となり、「ヨーロッパの窓辺を変えた」と称されている。

品種は400~500。毎年のように新品種が登場するため、品種選びは栽培の醍醐味。花の大きさにより、花径5cm未満の小輪種と花径5cm以上の大輪種に大別できる。一重咲きや八重咲きもあり、花色は赤、紫、青紫、白、白黄、白青、桃など多彩で花数も多い。

開花期間 5月~11月

水やり 土の表面が乾いていたらすぐにたっぷり。

置き場所 日当たり(半日以上直射日光が当たる屋外)と風通しのよい場所

肥料 ^{もとこえ}元肥として粒状の緩効性化成肥料を施す。多肥を好むため、3月~11月は定期的に追肥する。生育しながら開花を続けるため、薄めに希釈(2000~3000倍)した液体肥料を鉢土の表面が乾いたら水やり代わりにかけると良い。

“トミー”こと

富山先生をご紹介!

とみやま まさかつ

富山 昌克 さん

藤井寺市在住の園芸研究家。昭和63年より園芸TV番組やラジオなどに出演。農業大学や専門学校でも講師を務め、市緑化推進協議会・景観審議会・教育委員会などでも委員を兼任。著書多数。平成28年4月から日本農業新聞日曜版「トミーのわくわくガーデニング」毎週連載。No plants No lifeが信念。